

「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時： 平成24年9月22日（土）10:00～12:10

場 所： 熊本市 市民会館崇城大学ホール（大会議室）

発表者： 意見発表者

○住民（1番）

おはようございます。トップで胸がドキドキしておりますけども。

昭和28年6月の水害で私の家も2階まで水がきました。後始末が大変で、もう何ヶ月もかかったんですけども、でも立野ダムはいりません。というのは阿蘇のお山、世界で一番かなと私は思っています。熊本県人の誇りだと思っています。特に北向山は鹿や猿が住んでいて、その大事な大事な原生林だから大切にしないといけないと子供の頃からずっと言われていました。それで育ちました。阿蘇に行くと阿蘇はどこへ行っても疲れがずっと抜けてしまって、本当に素晴らしい山で、遠くからきた人達には必ず阿蘇に連れて行って、素晴らしいでしょうと、ずっと自慢しております。そのお山にずっと以前から計画中の立野ダムについてですけれども、もしもダムが建設されたら、一番大事な北向山の根本が水浸しになってしまって、そして原生林はもう本当に死んでしまうと思います。一度死んだらもう元に戻すことは出来ません。建設予定地の岩盤はいつ行ってもボロボロとこぼれています。あそこをコンクリートで固めてダムにすることですけれども、それは一時的にはいいだろうと思えますけれども、長年かけたらボロボロと壊れていくのは自然の摂理だと思います。人の力で自然を制御していこうというのは、福島原発もわかりますけど、あの津波とか地震とかいうのは私達の力では止められません。大雨も同じ事です。それは人間の力で制御しようとする事は、結局、人間が自然を冒涇することになって、あとで大きな仕返しがきます。それを私達はどうにも止めようがありません。自然からのお仕置きを受けたら、私達は自然の恵みを受けられなくなります。自然の恵みを受けるためには、自然に対して私達はほんのちょっぴりお手伝いをするというような気持ちで、自然に対していかなければならないと思います。だから、やさしい気持ちをもって、関係機関の方々は、みんな生きている全てのものに対して、河川計画が本当に幸せであるような計画をたててもらいたいと思います。立野ダムは絶対に作って欲しくありません。以上です。

○住民（2番）

熊本市の●●と申します。

一つ質問ですけど、検討の場には流域市町村とか熊本県も入っていると思うんですけど、今日は県や市からは来られてないんでしょうか。国交省さんだけですか。当然、住民の意見を聴く場ですから、県知事さんや熊本市長も今日は来られて住民の意見を聞くと思ったんですけど、どうして国土交通省しかいないのですかね。検討の場じゃないじゃないですか。

まず、国交省のみなさんにお尋ねします。200ページ以上の素案を役場のロビーで立つ

たまま読んで、その場で意見が書けますか。絶対に不可能です。不可能な事を住民に押しつけないで下さい。私達が本日の公聴会を知ったのは、今週火曜日の熊日新聞の記事を読んだときです。それから2日後の木曜日にこの公聴会の募集は締め切られました。その2日間の間に役場のロビーに行って、素案を読んで意見を言えなんて不可能です。まず、素案の事を十分に知らせて、説明会を流域のあちこちで開いて、それから公聴会を開くべきです。国交省は立野ダムに自信がないから説明できないんじゃないんですか。本当に立野ダムに自信があるのならば、堂々と住民に説明して、堂々と住民の意見を聞くべきです。この点について、後で申入書を出しますのでご回答をお願いいたします。2点目に今回の検討がダムありきの検討であったという事を言います。国交省の治水対策案に、流域の水田の畦をかさ上げする案が書いてあったので、去年のパブリックコメントで、私は流域の水田55km²の畦を20cmかさ上げすれば、立野ダムの総貯水量以上の水が貯められる。単独で立野ダム以上の治水効果があると意見を書きました。ところが素案では20cmかさ上げする案に河道掘削などいろんな工事をくっつけて、1,900億円にして代替案として採用しないと書いてあります。これではダムありきの検討と言われてもしかたがありません。

次に、素案によると立野ダムの洪水を貯める容量は、想定した洪水を調節する分しかありません。想定以上の洪水では、立野ダム湖は満水になり洪水調節不能となります。素案ではダムの穴の入口にスクリーンを設置するので穴が詰まらなと書いてあります。この写真は島根県の益田川ダム、穴あきダムの例ですね。ご存じかと思えますけど。穴の位置に設置されたスクリーンです。7月12日の洪水では、ものすごい量の流木が白川を流れてまいりました。熊本市内の橋にもたくさんの流木が引っかかっていました。これがですね、大津町の下井手の取水堰に引っかかった流木です。ちょうど5メートル角の立野ダムの穴と同じぐらいの大きさです。立野ダムの穴にこの流木が引っかかり穴が詰まったらどうなるのですか。立野ダムの穴が塞がったら、ダムより下流に水は流れません。総貯水量1,000万m³に毎秒2,300m³、この間の洪水ですね、洪水が流れ込めば1時間ちょっとで立野ダムは満水になります。満水になったとたん、毎秒2,300m³の洪水がダム上部の8つの穴から流れ落ち、下流の水位は一気に上がります。立野ダムは災害を引き起こします。7月12日の洪水で立野ダムが無くて本当に助かりました。

7月の洪水で白川中流域では、河道の流下能力が低いとため、白川が至る所で氾濫しました。素案によると整備計画が中流域では未策定です。中流域では河道の掘削などを実施し、河道の流下能力を高めることが不可欠です。もっとも大きな被害を受けた阿蘇市では、河道の整備が進んだ地区でも黒川は至るところで氾濫しました。遊水地群の整備を進めるほかにも、出来るだけ雨水の河川の流出を抑制する方策が必要です。素案によると立野ダム案ではこのような方策が盛り込まれていません。このように白川上・中流域をみると立野ダム案では7月12日の洪水では対処出来ないことがわかります。また、立野ダムに頼れば頼るだけこれまで以上に河川改修に予算が回らなくなるのは明白です。これから10年という時間と1,000億円をかけて立野ダム案を選ぶのか、それとも同じ予算で阿蘇地区や中流域を含めた河川改修を選ぶのか、どう考えても住民にとっては危険なダム建設ではなく、即効性のある河川改修は選ぶべきだと考え私の意見発表を終わります。

最後に国交省の皆さん、大変素晴らしい検証をされていると思います。しかし、ダムという結論を導くために、大変苦労されたと思いますが、そこは正直にきちんと検証されて、

ダム以外の案が非常に安全だ、素晴らしいということを考えてほしいと思います。

最後に申入書を出したいと思いますが、タイトルだけ読ませてもらいます。公聴会及び意見募集のやり直しを求める申入書。どなたに出せばよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。

○住民（3番）

熊本市中央区におります市会議員の●●でございます。意見を述べます。

第1に、今日の説明会は9月11日に開かれた「第3回立野ダム建設事業の関係団体からなる検討の場」において、いくつかある治水対策案の中で立野ダムが有利の提案があつてわずか10日程度、その間、国が立野ダム建設について有利だと推進の立場を明確にしたことをどの程度の国民が知ったのでしょうか。案を提示して10日もたたない9月20日に申し込みを締め切り、公聴会を行うなど住民無視も甚だしいと思います。しかも参加者募集の呼びかけには、発表時間は5分となっていますので多くは話せませんと書いてあります。これでは全く聞く耳無しではないでしょうか。11日の検討の場では立野ダム案有利と提案してありますが、世論は必ずしもそうではありません。ダム建設には莫大な事業費、総事業費900億円以上を要し、なによりもかけがえのない自然環境に取り返しのつかない重大な影響を及ぼすダム建設にはきちんとした検証を行い、住民への説明責任を果たし、十分意見を聞き、その是非について意見を求めるのは当然ではないでしょうか。今回のようにダム建設先にありきで、性急に事を進めるのは断じて許されません。パブリックコメントでは圧倒的な意見が反対・慎重でした。川辺川ダム建設でも何度も住民討論集会などが行われました。今回の立野ダム建設においても住民説明会はもちろん、住民討論集会なども開いて住民合意のもとに徹底した論議を行うべきです。

第2に、素案では評価軸による評価の中で、生物の多様性の確保及び流域の自然環境への影響において、ダム案を除く他の案では影響は全くないか影響は限定的となっています。一方、立野ダム建設案では動植物の重要な種について生息地が消失、生息・生育環境の変化により影響を受けると予測される種があるために、生息・生育環境の整備や移植等の環境保全措置を講じる必要があると指摘をされています。このように、ダム建設案は他の案に比べ重大な環境への影響があるということが明確に検証されています。一方で、環境保全措置を講じるといいながら、その詳細は一切示されておりません。一度壊れた自然は元には戻りません。この点では国民へ納得のいく説明をすべきです。

第3に、ダム建設案では全体で毎秒2,300m³の流量調節です。そのうち、立野ダムと黒川遊水地建設と併せて毎秒300m³ということですから、ダムに比べて流域河川の整備による流量調整効果は毎秒2,000m³とはるかに大きいわけです。しかも12年前の2000年8月の九州地方整備局事務所長会議では、国の専門官が「白川は特殊堤防を使っているので、余裕高でいくと立野ダムが吹っ飛んでしまう」と言われています。ですから、当然、余裕高も含めた流量調節機能で検証するならばダムは必要ないのではないのでしょうか。検討の場ではふれてありませんでしたが、治水効果についても住民の納得がいく十分な検証内容を示して頂きたいと思います。

第4に、立野ダム予定地周辺の溪谷は立野溶岩で柱状節理がよくみられ、巨大ダムを建設するには危険な地質であると言われています。また、予定地には国内で地震発生確率

の高い活断層、布田川・日奈久断層の一部である北向山断層が通り、実際、立野ダム本体予定地左岸では多くの崩壊箇所も見られているように地盤が悪く地震による崩壊の危険性も指摘されていますが、安全性の検証も不十分だと思います。

9月12日から14日まで、黒髪渡鹿地域で国が行った河川改修説明会では「川底に土砂が貯まって浅くなっている。」「10年以上も前に家の中まで入ってきて調査をしながら、そのままになっていた。」などの意見が出ていましたが、いかに日常の河川改修や管理がおろそかになっていたのかと思いました。平成28年度以降に整備するとしていた計画を前倒しで28年度までに完了しようというのですから、これまでも促進しようとするれば、できていたのではないのでしょうか。こうした河川整備の遅れこそ、国として強く反省して頂きたいと思います。熊本市議会でも意見は分かれています。ダム建設ありきで先に突っ走っていくことは断固として反対です。以上です。

○住民（4番）

熊本市に住んでます●●です。

自然観察指導員をしています。2日間で市役所でこんな分厚い本を読めって言われたものですから、この3日、4日は不眠不休で一生懸命書きましたけれども、何百ページと読んで、全然見えない字が何十ページであるものを、それも見て書いたけど、結論から言います。

11年前から私はダムはいらないということで歴代首相から全て請願しています。それがいきなり、洪水が出たものですから、司会してらっしゃいます副所長の方から、ハードよりソフトって言われてから、ああよかったダムは絶対だされないぞと思っていたら、2、3日前いきなり、ダムはつくるぞとなって。所長さんがおられますけれども、ダムを止めて、ハードよりソフト整備を行って下さい。平成14年の河川整備計画でありますけど、これにはダムのことは全然ないのに、今朝の新聞では、県の土木部長がダムを含んで河川整備計画のおりすれば、あんなひどいことにはなりませんでしたと、嘘八百言ってます。それと、代継橋で毎秒3,500m³流れたと思います。それを県も熊日も市も、みんな内緒にしてるんですよ。代継橋の長さ×縦×秒速4.5mにしたら、毎秒何百m³と流れる訳です。私は天蚕糸を降ろして深さから長さから全部測りました。一人で測りました。嘘言わないで毎秒3,500m³流れます。毎秒2,300m³流れるときは毎秒300m³調節して、毎秒3,400m³流れるときは、毎秒400m³するよって。この論理も全くでたらめな論理です。

日本は1,000兆円借金があります。借金を増やさないでください。小泉さんがやっと減らしてくれたと思って、民主党が減らしてくれる、ダムは全部つくらないと言ったけど、また百兆円。めちゃくちゃ借金を増やしてます。

それと、この字を読むのにどれだけ苦労しましたか。4日間悩みましたよ。検証とか検討とか、国語辞典見てやっとわかりました。みんなめちゃくちゃです。検証は証明ですから、証明は地方体がすべきです。検討は、どうしても調べたらダムが必要だから、検討してくれって言って、国が検討すべきです。逆じゃないですか。しかもこの分厚い作文は、私あるところから手に入れて、4日間不眠不休で読んできたんですけど、やらせで、八百長です。国と県と市町村と自分で書いて、自分で作文して、嘘八百の数字を出して、私のパブリックコメントにも嘘が書いてあります。私は反対を全部書いとったのに、賛成っていう項目が入れてあるんですよ。でたらめ過ぎます。

それと、天井川っていうのは、私が言うな言うなと10年前から言っていて、ようやく言わなくなったら、こっそりと天井川と入れてあります。天井川はどこにもありません。代継橋は標高6mで、国道の差はずっと10mぐらい高く、その下のリバーサイドホテルでも、多分、市役所が9mで、下通も9mですから、3mくらい川底が低いですから、絶対、今後は天井川という言葉を使わないでください。それと、ダムのところは県の区間なのに、何で国がするんですか。事務所の所長さんや副所長さんがいるところの100m離れたところから、今度浸かったところが丸見えじゃないですか。大臣なんかも連れてきて副大臣なんかも連れてきて、みんなあそこから朝の6時から9時まで、洪水がはん濫し、ヘリコプターも来たぞというのに、緊急避難しろと一言も言っていないじゃないですか。危ないから、自分の裏の川を県に押しつけているのですよ。とても信じられない、悪いことが次から次にあります。

友達の家が浸かったから3日間泥をだしましたよ。30年前家つくったときに、俺ここには絶対家作らないぞと思いましたが、県のお偉いさんでしたから黙ってます。

それと、今から6ページしゃべりたいんですけど、足らないからまた手紙出しますので、嘘を書かないで、私の意見も、本に載せてくださいね。

平成11年に銀行の会長、熊日新聞社、熊本大学、東海大学を取り込んで17名の委員への説明資料の中でダムのこと全く書いてありません。それで、私が押しかけていって、国や県にあなたたちは騙されてはいけませんよと言って、阿蘇やいろいろな所に行き、毎日のようにがんばりました。一人で。自分で現地調査から何からしました。

まとめとですね。これ何時までなんですか。たった5分で卑怯ですよ。

資料は福岡にとったら、郵便の出し入れだけで4日で、今日の朝で私の家に着いてることになるんですよ。とんでもないことしないでください。まとめはですね、グループ分けが卑怯。1とこっちとこっちを結びつけたり、こっちとこっちを結びつけたり、前回の資料もそうでしたけど、めちゃくちゃな作戦をしています。全然、別の予算ですから、ダムはダムで何千億円とあなた達は使おうって思っているのでしょうか。河川改修で何千億円て使おうって思っているのでしょうか。もう日本は破産しますよ。

終わります。

○住民（5番）

県会議員の●●です。渡鹿から来ました。

今、国交省がスピード感をもって全力で取り組んでいくべきことは、7月12日の大雨で被害にあったところの堤防を作り、浚渫・掘削をし、水害を起こさないよう整備することです。甚大な被害をもたらした7.12熊本広域大水害は過去に経験したことのないような大雨、1000年に1度の豪雨と指摘される大雨でした。同時に白川があふれた被害現場を調査すると地元紙熊日も「はん濫 堤防の無い区間から」と書いているように堤防が無いところからの氾濫であり、白川改修の遅れが原因であることは明らかです。国交省は来年を期に、今年7月12日規模の大雨がふっても、洪水被害を出さない対策をとるため、地域ごとの具体的な計画段取りを急いで進めるべきであります。川幅より33mも狭い明午橋の掛け替えは急がないと大変なことになります。球磨川で川辺川ダム建設が進められたとき、毎年150億から100億円前後の予算が組まれていました。ところがその一方で、球磨

川では河川改修が遅れ、毎年のように水害があちこちで起きました。ダム建設にお金がつぎ込まれ、河川改修が後回しにされたからであります。立野ダム計画を進めれば、今急いでやるべき河川改修が遅れてしまうことになりかねません。国交省は9月11日に開かれた第3回検討の場で立野ダムが最も有効との見解を示しましたが、この結論は国交省の過去の実績に照らすと全く信用できません。川辺川ダム建設計画で国交省は、2日間雨量440mmで人吉の流量は7,000m³/sになると固執しておりました。ところが440mm程度の雨が降っても人吉の流量は4,000m³/sから4,300m³/sでした。そこで突然国交省は2日間雨量を12時間雨量に変えてしまいました。基準地点は八代と人吉でした。流量はそれぞれ9,000m³/s、7,000m³/sでした。ところが八代9,000m³/sでは人吉が7,000m³/sにならないので、八代を突然基準地点から外してしまいました。しばらくするとまたまた突然、八代を基準地点に復活させました。そして八代の流量はいつのまにか9,000m³/sから9,900m³/sに変わっていました。県議会の議事録に載っておりますが私が一般質問でこの問題を指摘したときに、当時の知事も「2転3転し、誰が聞いても理解しがたいものだったと。」述べています。財政・コスト面でも川辺川ダムは当初350億円だったのが3,300億円の10倍に膨れ上がりました。国交省は住民討論集会で川辺川ダムはあと630億円で済むのに、ダム以外の対策では2,100億円以上かかると主張しました。ダムの中止の方向が決まり、国交省が示したダム以外の治水代替案は、住民討論集会で国交省がほとんど否定してきた堤防のかさ上げや掘削やあるいは遊水地などの計画であります。2,100億円の5分の1の約400億円でした。これらは国交省の立野ダムありきの結論が信用できない理由の一端であります。川辺川ダム問題では住民討論集会を9回開き、延べ53時間1万2000人が参加しました。森林保水力の検証もやりました。球磨川明日の川づくり報告会は流域で51回、熊本市・山鹿市あわせて53カ所で開かれました。熊本県が有識者会議を設置し8回の審議がなされました。立野ダムは11日に350ページ以上の文書を発表し、わずかな日を置いて今日から24日までの3カ所で終わるとするのは断じて容認できません。国交省は情報を公開し流域住民、県民に対する説明責任を果たすこと、そのための中小規模の説明会を各地で開催することを望みます。パブリックコメントでも異論反対が多く出ており県民参加型の公正な討論集会を治水対策のあり方、コスト、環境、地域社会への影響のテーマ毎開催することを求めます。立野ダムの安全性については立野ダム建設予定地周辺には崩落しやすい柱状節理が見られます。布田川・日奈久断層帯の一部である北向山断層が通っています。ダム上流の水位の上下動による地下水位の上下変動による斜面崩壊による危険があります。阿蘇の山々の深層崩壊による土石流により大量の流木、巨大岩石、大量の泥が流れ込みます。これらによって穴あきダムの放流口がつまり、満杯になり穴あきダムの機能が失われること、そしてダム自身の危険性も心配されるところであります。安全の問題は特別の検証が必要です。立野ダム建設計画は白紙に戻し住民参加で検証することを求め、私の意見と致します。

○住民（6番）

熊本市内に住んでいます●●と申します。

私は、あるNPOの団体に所属して、そこの職員をしています。職場で立野ダムのことを聴いても知っている人はだれもいませんでした。アパートに住んでいるのですが、この住民の方も誰一人、このような検討が行われていることを知っている人はいません。

私が特殊なところにいるという風にはあまり思っていないので、少なくとも私の周りではこのような検討が行われている事を知っている人がいないという事実は非常に重要なことではないかと思えます。1997年に成立した改正河川法の中では、ダム・堤防等の具体的な整備の計画について河川管理者が地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映させて定めますという文言があります。主権者である住民に対して情報公開を徹底し、十分な議論を踏まえ、コンセンサスを得た上で計画を定めるということが法の趣旨ではないのでしょうか。先ほどからも言われておりますように、今月の11日に開催された検討の場において確認された200ページを超える素案を熟読し、20日までの締め切りに対応できる住民がどれくらいいると想定されたのでしょうか。地域住民に知らせないままダム案を急いで決定したいという意向と受け取られても仕方がない進め方ではないのでしょうか。7月12日の水害からほぼ1週間後、検討の場での結論としての素案も確定していない段階で、熊本市が国に対し立野ダム本体工事の早期着手に向けた事業促進の要望を提出した経緯からも、最初から結論ありきのセレモニーにすぎないのではないかという疑念を持っております。法の趣旨から言えば、広く住民に周知徹底をする努力をするべきであるにもかかわらず、関係住民及び有識者からの意見を聞く場を、本日を含めわずか4日間に限定するような非常識きわまりない進め方を見直す必要があると考えております。

素案では主に完成までのコストと時間の評価軸でダム案が有利であるという結論になっていますが、この評価自体、私は大いに疑問を感じております。

第1に、1度壊した環境はすぐには戻らず取り返しがつかない事態も想定されます。ダムによって水没する北向谷原始林は国指定の天然記念物であり、立野ダム事業区域は阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地域に指定され、絶滅危惧種であるクマタカの生息も確認されています。環境への配慮こそ、最優先すべき課題ではないでしょうか。ダム建設は阿蘇を世界遺産に登録する動きにも水を差します。

第2に、時間の問題があります。ゲリラ豪雨と称される局地的な豪雨はその頻度を増しておりダム完成までの今後10年間に、今回のような事態が発生しない確率はかなり低いのではないのでしょうか。5年後という意味では河道掘削案や輪中堤案が有利であることを素案でも認めているように、毎年、継続的に実施する改修案のほうが順次効果を発現するため、より現実的な対応だと考えます。ダムが完成するまでの10年間、万一水害が発生すればその復旧コストを考慮すれば、必ずしもダム案がコスト的に有利ということにもならないのではないかと考えています。生命・財産にも関わる重要な案件であり膨大な予算を伴う事業ですので、地域住民の合意を図るため、川辺川のところでもありましたように住民討論会もふくめ意見交換の場を設置することを強く求めます。

以上です。

○住民（7番）

東区の方から来ました●●といます。

だいぶンダムが問題だという発言が多かったので、2つだけ意見を述べたいと思います。

1つは説明責任の問題です。熊本は、長く川辺川ダム問題で議論されて、ダムを造らないとなりました。この教訓をどう踏まえるのかということが非常に大事だと思います。国交省は長くダムありきで進めてきて、水害のあった体験者や市民団体がちょっと待つてく

れと、ダムはかえって心配だという議論をして、住民討論集会もあって、それで国交省や国が進めようとしたダムありきにストップがかかって、結局今はダムによらない治水対策で行きましようとなり、どんどん球磨川の河川は進んでいます。これをしっかり踏まえているのかと私は強く思います。7月の災害があり、私もボランティアで龍田1丁目や陳内や阿蘇に行きました。それで、目の前の堤防をどうかしてくれと言う話は聞きましたけど、ダムという話はひとつも私は聞きませんでした。ですから話がありましたように、ダムを造るといのはほとんど熊本市民は、今回の報道では有りますが議論はされていません。実際、住民からもそういう声は出ておりません。

7月に龍田の市民センターでありました県の説明会ですけれども、熊本市も国交省も来ており私も行きました。話を聞きましたけど、その中では、ダム造ろうとかかダムを考えているとか説明は一言も無くて、当然、説明会に来た水害にあった体験者の方々も、ここをこうしてくれ、川幅を広げてくれ、そういった目の前の川の対策の話ばかりでした。それで9月のはじめの検証の場に私も行きました。それから10日あまりたって今日の説明会ということですので、川辺川ダムの大きな教訓を踏まえないで、住民討論会で広がったらダム反対世論が広がるかもしれないことを予測して、事を急いでいるようにしか思えません。住民がやっぱり反対をする、水害体験者が反対する、その為、知らないということでも事を進めるのは絶対良くないと思います。

2点目は、私も全然専門家でもありませんし数字や難しい話は解りません。全部はこれも読んでおられません、穴あきダムの危険性を素人ながらに考えるのです。先ほどから有りました穴が詰まるんじゃないかなという話、これは大いにあり得ると、流木も有るし、大きな石も流れて、色々な物が今度は流れて来ました。私、心配しますのは、最初に豪雨が降って三つの穴が詰まったとすると、少し雨がやんでも小雨でもただならぬ二日間三日間と降りますとずっと溜まります。その間、断流で川は流れませんが、満水状態になり、それから豪雨がまた来たら、もうダムの洪水機能は無くなります。そのダムの洪水機能をあてにして下流の方で、洪水の対策で安心していたら、その対策には間に合わないで被害がでる可能性があるのですが、加えて私がもしもということでも心配しますのは、満水状態でどんどん水がダムから溢れているときに土砂崩れが起こったらどうなるんだろうかと、満水状態で溢れて、ドバツと崩れれば津波状態で相当の水が下流に流れます。阿蘇の坂梨とか内牧などいろんな所を今回見てきましたけど、あちこちで崖崩れが起きています。ですから、満水状態でどんどん溢れているときに、立野でも崩れていましたが、あのようなことが斜面でもしおこったら、だれがどう責任をとるのかと。熊本市の被害をだれも責任が取れないのではと、そのような危険があると思います。しかも、地震の話も有りますし、岩盤が弱い話もありますから、そういった問題も含める検証をしっかりしないとこのまま進められないというのが私の意見です。ですから、住民合意で様々な検証を行う必要があると思います。危険性については特に多くの方が心配していますので、こういった検証をすべきであって、事を急ぐべきではありません。これは、国交省もそうですが民主党政権や、今日の熊日新聞の知事さんのコメント、そして熊本市長さんも含めてですけれども住民にもっと向き合って欲しいというふうに思います。

以上です。

○住民（8番）

こんにちは、渡鹿から来ました●●ですけれども、皆さん、立野ダムには反対ということを書けられました。私も、熊本市の渡鹿の住民として、渡鹿でも水害が起きましたけれども、先ほど●●県議から書けられましたように、堤防の嵩上げ等をしていないところから水害が起きているのです。今日ここに来て感じるのは、9月13日に渡鹿においても治水対策の国土交通省からの説明会があったんですけれども、そのときには何にも一言もこういうことは言われませんでした。私たちから見れば沢山の税金を使うのだから、だったらもっと早く渡鹿とかで堤防のかさ上げをしていけばこんな水害は今回起きなかった訳です。だから住民を軽く見ている、そして無駄使いばかりしていると私は思います。だから、私は渡鹿の住民からも早く堤防のかさ上げと、浅くなっているところの掘削を緊急にやってもらいたいということです。私も難しいことはわかりませんが、ダムは下から読めばムダです。荒瀬ダムも撤去するのに80億円もかかるというのを聞くと庶民感覚から私は考えられない。アメリカでもダムは全然造っていないんですけど、ダムの建設は是非中止してもらいたいと思います。

以上です。

○住民（9番）

熊本市に住んでおります●●と申します。

報告書素案について意見を申し上げます。

国土交通省による検証の結論は、ご存じのとおり立野ダム案が最も有利だということでしたが、私は、次の点で大きな問題があると認識し、更なる検証の必要性を感じたところではあります。

1点目は、これまでも意見が出されました、が想定外の洪水に対してダムが対応できるのかという点であります。この点については第3回検討の場でも質問がされ、国交省側からは「7.12九州北部豪雨に対しては対応できたが、満水になるのは雨の降り方により変わるので一概には言えない。昭和28年の6.26水害を超える洪水には対応できない」との発言がありました。当然この議論はダムの放流口から水が正常に流下したことが前提であります。流木や岩石などにより穴が塞がった場合には計画内の洪水でもダムがたちまち満水となってしまう、治水機能が失われ、流入した洪水がそのまま流下せざるを得ない事態となります。信頼できる流木対策の構造物の形状についても、まだまだ技術基準が確立されていないという指摘がある中で、この点については流域住民への説明責任を果たしているとは思いませんし、重大な課題だと考えております。ダムが前提となった河川改修においては、ダムの治水効果、例えば水位低減効果を見込んだ計画になることから、例えば計画を上回る洪水や今指摘しました流木によりダムが治水効果が発揮できない場合、水害が拡大する危険性があります。ダムによる被害の拡大については、今回の報告書素案では、国交省からは「目標を上回る洪水が発生した場合でも、ダムから放流される流量がダム貯水池に流入する流量を超える事はありません」との回答がありましたが、これは極々あたりまえの事を述べているだけで、では流木などが穴を塞いで治水効果を発揮できない場合、ダムによる治水効果を見込んだ河川においてはどうか水害の危険を回避するのか、具体的な回答は示されておられません。

2点目の課題は自然環境への影響です。ご存じのとおりダム予定地の上流は北向谷自然林があり国指定の天然記念物であります。こうした貴重な自然が洪水時には水没すると共に、試験湛水によっても水没することから過酷な影響を受けることが懸念されています。こうした中で、報告書の素案では、北向谷原始林への影響については「洪水時は冠水する時間が短いために植物に与える影響は小さいと想定される。試験湛水においても湛水期間を短くすることから影響についてはできる限り低減されると想定される。」と表現されています。さらにダム建設に関わる水環境への影響についても「水質に変化は無いと予測される」と示されているように環境に関する評価については「想定」という言葉や「予測」という言葉で結論づけられていますが、科学的な検証データが示されていない段階で正当に評価することが難しい事は明らかであります。

3点目は多くの方が指摘されていましたが、流域住民への情報公開や説明責任が不十分であるという点です。寄せられたパブコメは、こうした影響も受け11件と少ない件数です。しかし、この中でも大半がダムによらない治水対策を求めています。本日から住民から意見を聞く場も開催をされておりますが、素案公表から10日足らずしか経っていない時点で、3日間の意見の聞き取りでは、まともな住民意見の反映が出来るものではありません。私は、昨年10月17日に第2回検討の場が開かれて、複数の治水対策案の立案とか概略評価による治水対策案の抽出が提示をされて、11月15日までパブコメが行われました。その間から今度の9月11日まで、住民側から意見に対して約10ヶ月をかけて検討の場で国交省の回答が出されました。その一方で、今度は住民からの意見を聴くときは素案を見て10日後に意見を求めるとするのはどう考えてもおかしいと考えます。住民自身がダムについて考え判断するためには、更なる情報公開と住民参加の検証の機会を保証をして頂きたい。このことを強く求めると同時に、公共事業のあり方を決めるのは住民自身であります。7つの評価軸で判断をされたと先ほど説明がありましたが、もっとも重視してほしいのは、住民が必要としているか、要望しているか、この点を最大の評価軸として今後ダムによらない治水対策を住民とともに追求してほしい。このことを強く求めて私の意見としたいと思いません。

○住民（10番）

●●です。私は大津町からやって参りました。

昭和の終わりに熊本県へ転勤命令が出まして、千葉から転勤してやってきました。水害にかかわる情報を知っており、熊本での住まいは川沿いではなく高台を選ばせてもらいました。そういう状況であるというのは、熊本の場合いろんな報道で都度されてましたので、経験しております。今回の説明会に参加させて頂きましたが、国交省の方から質問に対する回答をして頂けるかと思いましたが、今までの発表の内容を見ておきますと、立野ダムに対しもの申すという形になっていると思いましたが、いろいろと質問はありますがその中で国交省の担当の方にお聞きして回答して頂ければありがたいと思います。

私の案としては今回、立野ダムの建設に980億円の予算が必要で、他の案は1,120億から1,580億円と聞いております。結果的にはダムを作った方が安く上がるという結論で国交省はダム一連の話題を取り上げたんだと思います。今回の水害に関して特に考えられる対策案として、今回の水害で越流した部分の河道の掘削とか堤防のかさ上げとか河道内の樹

木の伐採です。それといわゆる白川そのものは国交省の担当エリアと県の担当するエリアがあると先日聞いています。立野ダムあるいは河川改修が済んでいる部分については国交省、今回水害で被害があった箇所は県の担当で何もなされて無くて越流したという状況です。毎日大津で生活しております、白川流域の被害の惨状を見ていますが、穴あきダムは5mの穴があるとの事ですが、白川流域には5mを超える構造物や堰堤の跡だとか、擁壁の跡などがごろごろ転がっています。それを片づけるのは国の費用でなされると思いますが、ダムの穴が詰まるのではないかと恐れが多分にありますし、先週末、旧長陽村が経営しているキャンプ場に行ってきましたが、右岸と左岸は明らかに材質が異なる岩が組成してまして、キャンプ場の周辺にも5mを超える構造物がごろごろ転がっていました。ダムを造るに当たって、国交省が片づけられるのか疑問があるし、今回の災害復旧で撤去されるのかということもあります。そういう意味において先ほどの残工事には、黒川の調整池の掘削がまだ残ってますし、橋の架け替えや色々残っていますけれども、国交省が担当されるのか県が担当されるのか疑問で残ります。立野ダムの建設事業の検証に関わる検討事項の中で6-13「河川改修は継続していきます」というのは国交省の担当の部分なのかそれ以外の部分も含むのか、それと6-15にある立野ダムが出来た後、周辺の国有林や国の天然記念物に指定されている部分の試験湛水、やはり5ヶ月から6ヶ月ぐらいかかると思いますが、その間に枯れた木は全然切らないと表現されていますが、その辺もやはり益田川ダムの状況を見てますと試験湛水の後、木が枯れています。その枯れた木をいつまでも見なければいけないのか。朽ちて流れてしまうまで何年かかかると思いますが。その間、木を切らないと表現がしてありますので、その辺も気になりました。

簡単ですが、以上です。

○住民（11番）

熊本市の東区に住んでいる●●です。

私、去年初めて立野ダム建設予定地を見に行きました。素晴らしい場所です。熊本市、熊本県はもっと宣伝すればよいと思います。北海道の層雲峡に匹敵するのではないかと思います。そこにダムが、熊本県庁よりもはるかに高い、熊本城並みの構造物ができるのを想像しただけで、あそこのせっかくの原生林が浸かってしまう、どういうことだろうかと思えます。これまでにいっぱい話されてきましたが、私もこれだけの検討報告書素案ができておりますけれども、あれをインターネットで、PDFをみると、とても読めるものではありません。今日見ても印刷物は字が小さくてまず見えないですね。このようなもので「意見があるなら言え」という公聴会のあり方自体が、公聴の主旨を真っ向から否定するものであり、公聴会としての疑問があることを抑えた上で意見を言いたいと思えます。資料の中で3.1.1の立野ダムの目的についてということで、立野ダムありきということで書いてあるのですけれども、とにかく、洪水被害の防止または軽減を図るという結論だけ書いてあります。しかしこれは、川辺川ダムのときもそうであったのですが、想定してある雨量、ダムの都合のよい間隔でダムに都合のよい雨量、80年に1回とかそのようなことを国交省はどんどん言ってきますけれども、すべては想定内の雨量であります。どんなに激しい雨でも。ところが今回の7月12日の雨というは、想定をはるかに超える量です。想定はできない。想定はできないところに構造物を作って、1時間で満水になる。私も感覚的にそう

思います。あんな狭いところであれだけの外輪山の中の水が一気に集まってくるんですから、普通に考えたら、あそこにダムを作ったら川辺川の比ではないですね。とても貯められるものではないです。あと、想定してあるというのが、「ちゃんと穴から出ていって洪水が起きないようにちゃんと流しますよ。」とそんなことはあり得ないと思いますね。昨年の3.11で想定していたことはいっさい起こりませんでした。想定外のことなんです。今年、熊本市に私も申し入れに行きました。熊本市長さんが立野ダムを作りたいと言っていたので。その時対応した副市長がいわれたのが、「3.11で物事が想定できなくなった。」そこまでは分かります。「想定できなくなったから立野ダムを作ります。」と言ったんですね。今でも全く意味が分からないです。そういうレベルの市長さんがいる意見をいっぱい並べているのです。熊本市の市長さんが、一番流域の財産を守っているだろうから、一番意見が大きいと思います。そういう市長さんの意見を並べて、そしてその上で立野ダム。あそこは出来るような雰囲気ではなかったです。工事は止まっていて、工事は止まっているというか、廃屋みたいな工事事務所があって、ダムはもうあきらめたのかなと思っていたのですけれども、ところが急に浮上した訳です。しかし全く物事をわからない市長さんもいらっしゃいます。そういう意見を受けて急に立野ダムが出てきたというのは本当におかしいことだと思います。川辺川ダムの住民討論集会には、私も初回から参加してきました。9回のうち8回は参加してきました。流域の町長さん、市長さん、村長さんはだいたい来られておりました。一番に住民の感覚、先ほど冒頭で●●さんがおっしゃったように、一番財産を守らなければならない首長さんが一人も来ていません。こんな状況で検証をするということは、全く何のための検証かと思います。もし、このようなことを進めるならば、短い期間で分厚い資料を読ませて意見を言わせるのではなくて、これから仕切直して、色々な対策案があるので、そこをちゃんと見せて。コストを並べ立てるばかりで、詳細に検討した形跡すら無いですね。ちゃんと検証して資料をそろえて、もっと住民に開示してそれから改めてやるのであれば、このような場を開いて欲しいということを申しまして、私の意見を終わりにします。

(1 : 26 : 10)

○住民 (12番)

皆さんこんにちは。私は熊本市議会議員の●●と申します。

熊本市役所の退職者です。これまでの流れを見ますと、市長が立野ダム建設要望書を国交省に提出しております。そのおりに何故、まだ検証途中であるのに提出したのかと、住民団体が抗議文を提出しました。それに私も同席致しました。対応したのは都市整備局の次長と河川公園課長です。両方とも私の後輩です。かれらは何故立野ダムかという理由に答えることが出来ませんでした。彼らが言うには、この要望書は企画の方で作っており、私たちはタッチすることはできなかったと言っております。このことからすると、純粋に技術的な面からの要望では無く、政治的な側面を大きくもったものだと感じました。また先の12日の熊本市議会で、最終日に建設促進の意見書が自民党熊本市議会からの提出で議決されましたが、その意見書の内容を見ますと、その書きぶりは、本日提出されております検討報告書の内容と非常に類似しているなという印象を持ちました。市長の国交省

への要望提出、市議会の意見書、これらの一連の流れは連動しているなど。また、今回素案の提出がすぐに行われました。素案の公開がすぐに行われ、今回が公聴会、あと3日の公聴会、さらにその翌日に学識経験者の意見を聞く場です。怒濤のごとく手続きが用意されております。まるで洪水を起こしたかのような流れになっております。ここに市長の意見要望書提出と引き続く流れ、シナリオを書いた人がどこかにいるのではないかと感じざるを得ません。さて、時間が限られておりますので、私の用意して参りました意見の内容を、足早ではありますが、読みながら時間の制約の中で発表に変えさせて頂きたいと思っております。

私は熊本市役所の退職者です。化学の技術吏員として環境部門を主体に勤務しておりました。最後の職場は水保全課でした。水保全課では水質汚濁防止法を担当し、河川や地下水の水質調査や工場排水の規制を行っていました。退職前は、白川中流域での水田を活用した地下水涵養対策に取り組みました。

「白川・緑川水質保全協議会」という組織があります。この事務局は、ここに来られております熊本河川国道事務所の皆さんです。熊本市も参加して水質汚濁事故、「一旦、川の水質が汚染されたらすぐに対処しよう」という訓練を行っていたことを思い出します。河川国道事務所も本当に真剣に川をきれいにするために取り組んでおられました。

国・県・市が共同して公共用水域の水質調査をしていますが、熊本市が白川で担当した環境基準点は吉原橋です。環境基準のA類型です。非常に高いランクの類型です。以前、私が担当していたときはこれを達成することは非常にまれでした。ところが近年は、これを常に満足しております。上流の天津町さんや菊陽町さんの下水道整備などが進み、付近の住民や工場排水の企業の協力もあったからだと考えております。

ところで、今回公表されました「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」を拝見いたしますと、堆砂計画では貯水位の低下とともに堆積土砂は流下すると記載してあります。4-103では湛水の水位低下時に土砂による濁りが増加すると記載してあります。私は、せっかく水質が改善されてきた白川の水質悪化を招く大きな原因となるのではないかと強く指摘させて頂きます。どのくらいの濁りが発生するのでしょうか。どのくらいの期間、濁りが継続するのでしょうか。

目を川辺川に転じてみますと、上流に建設されている樅木ダムや朴木ダムの穴あきダム、これは同じ構造ですが、濁りが八代海まで影響しております。この現状をみると立野ダムを建設すると白川もこのようになるのではないかと大きな危惧を抱かざるを得ません。流域自治体の下水道整備や工業排水の企業努力、これらを無にしまいかねない立野ダムの建設計画だと指摘せざるを得ません。川の濁りは鮎の生育を阻害し、のり養殖への被害を引き起こします。白川は立野のすぐ下流に位置する上井手から堀川を流下して坪井川に合流しています。そして熊本城長堀前を流れます。その川が泥・濁りとなっては熊本の観光に多大な影響を与えます。果たしてこの濁りの原因である汚濁物質を解消できるのでしょうか。効果的な環境保全対策をとることが出来るのでしょうか。このことから立野ダムの建設に強く反対します。

さて皆さん、白川を分離して2つの川があることをご存じでしょうか。白川は2つの川に分かれております。先ほども申しました、上井手から堀川そして坪井川と合流する道。もう一つの川は、白川中流域を主体とした地下水の川です。阿蘇が噴火する前に古い加勢

川、古加勢川というのが南北に流れているという学者さんの言葉もあります。この地下水を通して、緑川、加勢川を流れておりますので、これらの2つのルートを活用する方法があるのではないかとこのことを指摘したいと思います。

以上、最初は省きましたが、この原稿案は国土交通省河川国道事務所にもさきほど提出しておりますので、十分に意見を踏まえて、慎重な、また、ここに書いてあります聴く場、心を込めて市民の意見を聴いて頂きたいと要望いたします。

○住民（13番）

皆さんこんにちは団体代表をしております●●です。

今回の報告書において立野ダムが最も有効とされたことについて肝心の熊本市民への説明責任が果たされていないだけでなく、気象庁が1000年に1度の豪雨といった今回の災害について何一つ検証がされずに結論を出していることに大きな違和感を感じました。そしてまた、市民の大半が納得できないだろうとそういう立場から意見を申し上げます。

実は、私が市会議員をしておりましたときにちょうど川辺川の住民討論集会が行われました。また、市議会で御船の七滝ダムについて、その当時の市長と論争したことを思い出します。そういう点ではダム問題に深い関心を持ってまいりました。七滝ダムについては正式に中止になりましたのでやっぱりそうかと胸をなで下ろしたところですが、今回の検討会におきまして立野ダムが最も有効という報告が出された事に驚きを禁じ得ませんでした。今回の7.12豪雨災害との関係はもう他の皆様の意見がございましたのでそちらに譲りたいと思いますが、事実上熊本市民を置き去りにして急いで結論を出そうという姿勢には厳しく批判をせざるを得ません。まず、熊本市も含めた関係地方公共団体からなる検討の場でこれまでどのような議論が行われたのかという問題であります。議事録を見ましたが、大半が国土交通省側の説明であって、市町村の代表は事業費あるいは工期などについて若干説明を求めたり、あるいは要望を出しているだけで、ダム案がいいのか、それともダムに寄らない治水がいいのか中身については全く検証されておりません。これがなんで検討の場なのか、改めて疑問を持たざるを得ません。「いやパブコメしました。今回もこれから公聴会で意見を聴きます。」そういうふうに言うかもしれませんが、この程度では話しになりません。まさにこの問題は住民の生命と財産をどうやって守るか、そういう点では流域の住民にとってはまさに死活の問題であります。熊本市議会でも立野ダムとその他の治水対策について今回災害を受けてやっと議論が始まったばかりであります。市民にとっては検討の材料も全く示されておりません、だからこそ今回の検討の場においてどの首長さんも、昨日は県議会で知事も言いましたが、住民にしっかり説明してもらいたい、あらためて念を押してその上で結論を出してほしいと皆さん言っております。そうだと思います。私はそういう点では川辺川ダム問題を巡って実施された住民討論集会の形で徹底した議論が必要だと改めて感じております。この川辺川ダム事業を巡る論点について、ダム案と治水代替案を巡って県がコーディネイト役になって国土交通省とダム事業に意見がある団体並びに学者及び住民が参加してオープンでかつ公正に議論することを目的として行われました。毎回5時間近い論議がされましたし、第1回目などは午後1時から夜の8時過ぎまで白熱した大論争がなされております。一つ一つ疑問に思う点は全部論議をしてそれなりの結論を出しながら、最終的には流域の住民の大半がダムはいらないという結論を

出されました。そしてその後はダム推進の立場に立っていた市町村長も次々とやっぱりダムはいらない、住民の意見をしっかり聴いて欲しいとそういうことで態度表明が続いてきました。私はここから学ぶべき事はこういう討論の場を持てば住民は徹底して学習して文字通り住民が主役として、ダムがいいか、代替治水案がいいかと最終的に決定することができます。そうじゃなくて今の形では住民が全く主役になりません。国交省主役のダム決定になります。これは絶対にやってはいけないことであります。特に熊本では川辺川ダムを中止して、御船ダムも中止し、そして荒瀬ダムの撤去が始まっております。まさに熊本では県民の大半がダムをいらない、そういう選択をしている中でこの立野ダムだけが突出してこのダムが最も有効というのであれば、これまで以上に住民への説明が必要になることは言うまでもないことであります。以上申し上げましたように市民の中での議論はこれからであります。したがって、市民の生命と財産を守るという最も重要な事業において肝心の市民を置き去りにすることなく、川辺川ダムにおいて行われた住民討論集会の形で徹底した討論を行うことを強く求めて意見を終わります。

○住民（14番）

熊本市北区から参りました●●と申します。

先の水害で陳内4丁目に住む私のおじといとこ一家が被災致しました。また、その後のボランティア活動などで龍田1丁目、陳内4丁目の住民の皆さんから伺ったお話などをちょっとお話しさせて頂きたいと思っております。陳内4丁目に住むおじ、いとこ一家が被災したわけですが、特にいとこ一家につきましては、新築1ヶ月の時点での床上2mにも及ぶ被害でした。水害当日は乳飲み子を抱えて命の危険にさらされて必死で逃げ、そして水害から2ヶ月経った今でも自宅に帰る目処は全くたっていません。私も片づけに行きましたけども奥さんが泣きながら思い出の品、写真等をヘドロを洗い落としているのが今でも印象に残っています。またその後のボランティアなどで陳内4丁目の住民の方からも色々なお話を伺いましてやはり「22年の間に2度もひどい水害にあっている。もはや土地も家屋も資産価値がまったくゼロだと言われている。自分としてはもう怖くて住みたくないし移転したいと思うが、生活再建のためにもお金を借りようにも今の土地家屋は全く担保にもならないと、本当にここは宅地として人が住む場所として適切な場所だったのかとそういったことをですね行政の責任ではっきり判断してもらって、そして希望者にはちゃんと移転の手はずを取ってほしい。」といった声をたくさん聞きました。私のいとこ一家も家を建てるにあたっては、もちろん22年前の水害が念頭になかったわけではありません。しかし、業者の方からもう絶対に溢れないからと太鼓判を押されて購入に踏み切ったといういきさつがあります。確かに今回の水害は想定外の未曾有の水害だったのかもしれませんが。しかし先般来発言者の方の言葉にもありますように、実は溢れたところは殆どが堤防が未整備だったところから溢れてるといった実態があります。お隣の龍田1丁目にもボランティアの際に住民の方から伺いましたが、「龍田1丁目にはもう何年も前から自治会に、県に対して堤防を作ってほしいと陳情を出し続けてきた。しかし予算がないからという理由で退けられてきた。」という話や、また、別の川沿いもう川のほとり手前に住む住民の方からは、「ここはもうとっくに用地買収は済んでたはずだ。なのに川幅を広げるなどの手続きは全然取られていなかった。今回の水害はまさしく人災ではないか。」という声をたくさん

ん聞きました。白川については小磯橋から下流・上流とで国と県とで管理が分かれているという複雑な事情があります。特に龍田の流域の災害については、国に言えばあそこは県の管理なので熊本県さんに言って下さいよというお考えなのでしょうが、しかし流域に住む住民にとっては県の管理だろうが国の管理だろうがというのはあずかり知らないことだと思います。やはり熊本県民であるまえに日本国民であるわけですから、国民の安全と財産を守るという点では、例えば県が予算が無いから手を付けられないのか、それとも不作為でやらないのかということがあればやはり国として適切な援助であり指導がなされるべきだったのではないかと思います。さて、4丁目についてはやはり移転というお話もありましたが、龍田1丁目ですとか同じく陳内4丁目でも引き続きこの場所に住み続けたいとか、事情があって住み続けざるを得ないという人達にとってはやはり堤防の整備を早急にやって欲しいというお話があると思いますし、先程申しました「龍田1丁目は堤防が未整備だったから溢れた。じゃ陳内4丁目はどうだったのか。22年前の水害で堤防嵩上げした。それでも溢れたじゃないか。だからダムが必要なんだ。」ということをおっしゃる方もいるかもしれませんが、しかし陳内4丁目は例外だと考えたいと思います。特にヘアピンカーブの先っちょのような場所、あの狭い所にフジツボのようにびっしりと家が建っている。そもそもがやはりあそこは宅地としてはふさわしい場所ではなかった。どういった経緯であそこに住宅を建てることを許可されたのかということをやはり検証していく必要があると思います。この件は今回のテーマには直接は関係ありませんが、それでもやはり地域住民の方にとっては、「今でも毎日毎晩怖い思いをして暮らしている。ひとたび雨が降れば本当に眠れないくらい怖い思いをしている。だからこそすぐに堤防の整備をやってほしい。しかしダム建設では時間がかかりすぎる。もしダムを建てるということになればダムに予算を取られて築堤が滞るのではないか。」という懸念の声をたくさん聞きました。特に熊本市長が河川整備におけるダムの優位性を明言してからは特にその声は多く聞きます。素人考えにも、こういわれた方がいます。「ダムといっても今回みたいに国や気象庁が言うように、想定外の雨が降ったらダムの容量が一杯になったら放流せざるを得ないでしょう。そうなったら下流域にも多大な洪水を起こすんじゃないですか。素人の考えかもしれませんが私はそう思います。」そのように強くおっしゃった方もいました。その方はダムではなくやはり堤防ですとか川底の浚渫、そして何よりもポイントポイントで遊水地を作ること、これが一番大事じゃないかとおっしゃってました。私自信もそのように考えます。流域の皆さんにとっては、やはり10年もかかるダムではなく、すぐ目に見えて分かるような対策、例えば堤防作るにしても用地買収などで時間が掛かると思います。そうであるならば川底の浚渫。今でも吉原橋付近では川幅は土砂が溜まってどんどん狭くなっている。なおかつ川の真ん中にはパワーショベルが何台も縦横無尽に走り回れる位の巨大な中州ができてあがっています。そういうのを撤去するだけでも流域の住民は目に見えて関心があるのではないかというふうに思います。また私個人としても今回のダムありきの考え方には反対です。自然を破壊し、そして膨大な予算を費やす。また、住民に対する説明責任という点でも本当に不十分だというふうに私自身考えています。その点を踏まえて私の発言とさせていただきます。

○住民（15番）

島崎に住んでいます●●です。

私は、立野ダムを作るということに対しては、絶対に反対の立場でお話させていただきます。

今日のこの会を開くにあたっての色々な問題点は多くの方々から話されましたから省略します。ただ、今回の7月12日の水害はどうみても行政の怠慢の人災であるとしか言えません。このことについてもし時間があったら後から説明させて頂きたいと思います。

今回、国土交通省の方で出された「検討報告書」、この中を読んでまして一番気になったことを述べてみます。この中で見ますと、まず工程の問題です。現在からかかったとしても、あと10年かかる。そのうちで仮排水路トンネルが3年と2,3ヶ月。それから本体が6年と数ヶ月かかる。私たち、川辺川ダムのことを調べてみたことがあるのですが、ものすごく長いですよ。仮排水路トンネルだけで3ヶ月というのは、川辺川の場合だって2年もかかっていないと思います。それから、本体工事が6年半ぐらいかかるというふうになっています。これも川辺川の場合だったら、たった数年であの大きなダムが出来ることになっていました。何故そんなに時間がかかるのかということは、この間の説明会の時も、国土交通省の説明では全くありません。ただ10年かかる。だからどうするかということですよ。10年かかるから皆さん、そのつもりでいなさいよという感じなのですが、素人としての私の考えを言わせて頂くと、たぶんあそこの地質の問題じゃないかと思うのです。皆さんもご存じのように、あそこは柱状節理、それから砂と砂利が固まって岩になったような地層、また柱状節理といった形で多段になって、また、ご存じの通り国は水の溜まらないダムを阿蘇の先の方に作りました。あそこと同じ様な状況なんですね。そこで1回聞きに行ったら、セメントミルクを流し込んで固めてから作るから大丈夫ですよということは国土交通省さんが言われましたけど、かかる工程から見ると、すごくやりにくい所に無理してダムを作っているのではないかなと思います。仮排水路トンネルなんて、ただトンネルを掘るだけなんですよ。これもたぶんセメントミルクを固めながら、穴を掘っていく。だから3年もかかる。本体はですね、今度できるダムというのははっきり言ってあまり大きいダムでは無いですよ。日本のダムから言えば。小型のダムを7年近くもかかるというのは、あそこの土地はダムを作ったら危険であるということを国土交通省さん自ら証明しているようなものではないかなと思います。それと、なお恐ろしいのは、あの下に、布田川・日奈久断層という活断層が走っています。今まで原発で絶対にこんな事はあり得ないということが、この間の3月11日に起こりました。それと同じように、大雨が降って、色々なところの地盤がゆるんで、立野ダムがいっぱいになった時に地震が起らないという保証はだれもできないはずですよ。これが起こって、もしダムは壊れず残っても周りの岩盤が壊れた場合とかダム自身が壊れた場合、下流がどういう状況になるかというのは自ずと解ってくると思います。熊本をはじめ、大被害が起こるはずですよ。そういうところで何で無理してダムを作られるのか。本当にダムを作らなければ治水ができないわけではありませぬ。今まで皆さんがこういうところでこういう事をやったら治水は出来るといった様な話をしてますように、やはり河川改修、それから周りの状況を変化させる、そういうことで白川の治水というのは、十分に行っているのではないかなと思います。

それともう1つ、今度の報告書の中で私が不満だったのが、一番の集水面積を持つ阿蘇カルデラ内の方法、これをどうするかということが全く述べてありません。全く述べてないということはないかもしれませんが、あのカルデラ内に降る雨の処置、それから

たくさん土砂を流した土砂崩壊、こういう問題を解決してこそ初めて白川の治水は述べられるのではないかと思います。

他にたくさん作ってはいけない理由がありますけれども、今日はこのぐらいにして私の意見とさせていただきます。

○住民（16番）

皆さんこんにちは。熊本市東区から参りました●●と申します。

今日、私は環境問題をとりわけ大事にして頂きたいという視点で、立野ダム建設ではなく、河道の掘削や堰の改修や護岸工事などを進めることで、洪水防止を進めていただきたいということを切に願います。ダムによる洪水防止は、本当にたくさんの方がおっしゃったように限界があります。絶対に川はせききってはならないと本当に思います。川辺川ダムを私たちは中止させましたし、荒瀬ダムを撤去するというので、どれだけ地域住民の方々が喜んでおられるかということを私たちは大事に考えないといけないと思います。知人が坂本に住んでおりますけれども、荒瀬ダムで本当に大変な洪水が起こったということをお話しておりました。ダムが耐えきれなくなって開けるんですね。いっぱい水があるという状態で一気に上がってきましてということを切々と訴えられておりましたが、これまでお話をいっぱいされましたけれども、ダムで防止することには限界があります。穴あきダムであっても本当に流れを止めてしまいます。たくさん材木や大きな岩、火山灰が流れてきます。そして、色々問題が起こってくることは皆さんが述べられたとおりです。そして、皆さん、今年は荒瀬ダムを開けましたよね。そしたら八代海の青のりがものすごい長に成長したそうです。やはり栄養がある流量が十分に流れていくことによって下流の川がいかに健やかになるか、清流になるかということが示されたと思います。

私たちは、この熊本でダムの建設を中止させましたし、荒瀬ダムを日本全国で初めて撤去させました。これは未来の子供達にとってかけがえのない財産であり、自然と共に共生する人間のあり方として、理念として非常に大事な哲学ではないかというふうに思います。未来にどういふふうな資産を残していくのか、自然と共に共生しながら生きていく、自然の恵みを十分受けながら、そして弊害を起さないあり方ということ、荒瀬ダムの撤去を経験している訳ですけど、非常に大事な事だということ、命を生み出す私たちとしては未来に、子供達に何が一番財産であるかということ、肝に銘じないといけないのではないかと思います。先ほどたくさんの方がおっしゃいましたけれども、汚れた川を取り戻すということはとても出来ないことです。そして、そこには「阿蘇北向谷原生林」、国の天然記念物になっておりますけれども、これを守ろうではありませんか。やはり、豊かな自然、これを活かしてこそ何よりも大事な事だと思います。ですから、ダムを撤去させたよ、そして自然も守ったよ、これが子供達への大きな財産になると思います。そして、先ほどからダムを作っていくということを合意が得られていないということは皆さんがたくさんおっしゃいました。私もボランティアで龍田地域だとか、阿蘇だとか、大したことは出来なかったのですが、色々お話聴いたり、へドロの除去を手伝いに行ったりしたのですが、龍田の人たちは立野ダムを作る準備をされていますがという話をしたら「とんでもない。」とおっしゃるんですね。皆さんご存じでもないし、合意を得られているということは全然無

いということを私は実感しました。住民討論集会をたくさん開いて、そして未来の子供達にどういうあり方がいいのか、財産をどういう風に熊本市として残していくのかということ、本当に今一番大事な時ではないかと思しますので、市長さんも知事さんも走らずにですね、本当に住民の意見を聴いて、民主的討論で決めて頂きたいと思います。以上です。

○住民（17番）

皆さんこんにちは。熊本市内に住んでおります●●と申します。

実は、この素案をやっと昨日の午後4時頃に手に入れまして、夜一生懸命読んで、朝も少し早く起きて読みました。皆さんおっしゃいましたけれども、手続き論としまして、行政行為として急がせるというのは、1番市民としては理解が出来ないところであります。ひとつ私が今回気になったのは、今回の水害では直接被害を受けませんでした、多くの知人が被害に遭いました。この一連の動きの中でですね、疑問符が付いたのは、水害が発生して、すぐに熊本の市長さんや、昨日、知事さんが議会でダム案に賛成するということが報道されていました。さらに議会でもダム推進決議が上げられる、こういう動き。行政も、一部反対もありますが議会でも立野ダム推進一色という形になっております。十分な検討のなされていない、そういった中でダムの推進発言があちこちから声が出る。私はとても違和感を覚えました。先ほどもどなかたおっしゃいましたが、表現は悪いですが、今回の事態は、いわゆる出来レースのような感じを受けたのは私一人ではないと思えました。今回の水害にかこつけて、千載一遇のチャンスということでダムの推進を図る、こういう動きがあるのではと思えました。穴あきダムということ自体、私も初めて耳にした訳であります、素案を見ると穴あきダムというのは島根の益田にあると書いてありました。しかし、立野の地域というのは火山灰がたくさん流れて、流木もたくさんあって、岩盤ももろい、こういうダムは本当に大丈夫なのか、こういうことについては大変不安を増すばかりでございます。十分な検証もされていない、こういうことで、更なる不安が膨らんできております。

2つめには、今回水害が発生してすぐに市内の中心部から中流域の菊陽とか大津を見て回りました。その前に、国土交通省の職員の方と一緒に中心部の白川右岸の堤防整備の現場を訪ねて、視察もして、そして説明も受けました。水害が起こるずっと前です。これが完成すると中心部の被害は防げるのではないかということで実は安心をしておりました。ところが今回の水害に合いました。ずっと見て回ったら、被害にあった所は、先ほど何人もおっしゃいましたが計画があるにもかかわらず予算の関係で改修が遅れている、そういう所から水が漏れているということで、改修の遅れが一番の大きな原因で、それがダムという形にすり変えられている、ここに大きな問題があると思えます。この間の河川行政については大きな転換を迫られて参りました。一言で言えば、これまで国が決めて事業を進めるというやり方から住民参加型への転換。河川法が改正されて参加型になった。これは川辺川の問題あるいは八ッ場ダムの問題など、住民が国の政策に翻弄されてきた歴史、それと住民の運動があったからだと思います。パブコメでもダム案を反対する意見が圧倒的でありましたし、阿蘇にボランティアに行った時も、地元の人たちは発電用の堰を閉めたのが水害の原因ではなかったのかというようなお話をされておりました。素案の中でも県の副知事がダム案を支持の前提ですが、県民に対する十分な説明責任を果たす、このことを

要望するというふうに付け加えられております。その為にも情報公開、幅広く住民や専門家の意見を聴き、住民討論集会など是非たくさんやって頂きたい。国が勝手に決めていく、そういうやり方が無いように是非お願いしたいと思います。どの様な形で河川改修を進めるのかを決めるのはそこに住む住民であるはずですが、そこ事をしっかり考えないと、川辺川の2の舞になるのではないかと思います。被害住民は10年も待てません。立野ダムは是非白紙に戻して、そして新たな計画をしっかりと意見を聴いてやって下さい。

以上です。

○住民（18番）

こんにちは、熊本市内に住んでいる主婦の●●と申します。

私がこの会があるというのを知ったのは不覚にも昨日でした。そのため素案を読む時間もございませんで、今の説明を一生懸命聞きながらやってきました。なので稚拙な意見にはなるかと思いますが、普通の主婦の感覚としてどうなんだろうかと思ったことがたくさんありますので、今日、是非意見を述べさせて頂きたいと思ひましてこちらに立たせて頂きました。

まず、私は立野ダムということを知った時に、あの立野にダムを作るのかと非常にショックを覚えました。トロッコ列車が大好きで、あそこをゆっくりと走ってくれるあのトロッコで雄大な自然環境を楽しむということが、どれだけ私たちの心をなごませてくれるのかなというのが一番でございます。そういった環境が立野ダムによってどの様になってしまうのだろうか、今回の資料はまだ一部しか見ていませんが、全体としてのイメージがどの様になるのかをしっかりと示して欲しいと思いました。阿蘇という大自然が大好きなのですが、その中に果たしてあんな異物が必要なのだろうか、というのが第1の疑問でした。それでまず、大蘇ダムでしたでしょうか。先ほどもございましたが「ざるダム」、作ったけど役に立たないダムがあるという問題を何年前に問題になったと思います。その後、近頃は聞きませんが、私は立野にダムが出来たとしても似たような状況になるのではないかと懸念しております。地質図を見させて頂きまして、大蘇ダムがどこになるのかちょっと分かりかねたんですけど、もし地質が同じような場所に来るんであるとすれば、大蘇ダムの二の舞になるということはある得ると思います。また、他のダムの例でも土砂がたまってその土砂を運び出すのに費用がかかる。いわゆるダムというのは作っただけでは済まなくて、そのあとの保守点検、それも今までの色々な報道によっては、最初に思っていたよりも非常に大変であるというような話が放送されていたこともございました。そういったことを考えますと、今回色々見積もりが出されておりますけれども、そのとおりに果たして進むのだろうか、これからまた私たちの血税が色々なことで削られていくのではないかと非常に懸念しております。そしてなにより一度無くなった自然は元には戻らないと何人の方が心配しておられました。あそこあたりに残っている天然の森林資源、あれは私たちが作ったものではありません。あれは自然が作ってきたものです。それも長い年月をかけて作ってきたのではないかと思います。そういったものを私たちが暮らしていくために果たして破壊していくことが許されるのだろうかと思います。それこそ先ほど世界遺産という話がありましたけれども、そういったものを大切にしながら阿蘇の観光資源と経済を考える方がおられれば、例えば豊肥線の関係の方々とか、観光産業に関

わっている方々の意見もちゃんと伺っていくべきだと思いますし、何より阿蘇で生活していらっしゃる方々が、あそこで立野ダムが出来ることでの様な生活環境になるかといったことを含めて考えるべきではないかと思ひます。

それから、河川というのは上流から下流、海まで関係しています。その全体の事を見て考えるべきではないかと思ひます。立野ダムで川を仕切った場合に海にどの様な影響があるのかということを含めて専門家の意見を伺うべきではないかと思ひます。色々な公共工事が行われていますが、実は私、脱原発をやっておりまして、福島第1があのような事故を起こしたことにも非常に心を痛めております。何故あのような事故が起こったかといひますと、私たちは反対の意見をたくさん出しておりました。活断層もある。津波の影響もある。一旦事故が起こってしまえば放射能汚染の影響もあるというようなことは、すでに何度もパブリックコメントなどで意見を申し述べてきましたが、そういった反対派の意見が無視されてきたというところに最大の影響があったのではないかと思ひます。今回も、ああいった事故が起こってなかつた反対派の専門家の意見というのは大切にされませんが、今回まだ立野ダムは出来ておりませんので、是非反対されているの専門家の意見を十分に勘案した上で、後々、後悔がないようなことを是非やって頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。